

反帝自主で連帯する世界

チュチェ思想国際研究所事務局長

尾上 健一

尊敬するヨーロッパ・チュチェ思想研究学会会長 マッテオ・カルボネリ先生

尊敬するヨーロッパ・チュチェ思想研究学会書記長 ユハ・キエクシ先生

尊敬する同志の皆さん

このたび、ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会創立40周年を記念して開催された本セミナーのご成功を、心よりお祝い申し上げます。

また、創立以来一貫して、チュチェの旗のもとでたゆまぬ活動を続けてこられた先生方に、深い敬意を表します。

私事で恐縮ですが、体調の都合により本セミナーに直接参加することが叶わず、大変残念に思っています。

そのため、簡単ですが、私の思いを綴った文を準備いたしました。紙上で、皆さんとともに討論させていただければ幸いです。

.....

こんにち、世界は自主・平和の流れが本流となっています。

米国は長い間、世界に対して一極的な支配を続けてきました。

米国は、「自由」「民主主義」「人権」といった普遍的な理念を掲げ、あたかもその守護者であるかのように振る舞い、盛んに宣伝してきました。

しかし実際には、こうした理念は米帝国主義の侵略や略奪を正当化する口実として利用され、各地でさまざまな戦争や紛争が引き起こされてきました。

米国の矛盾した行動に同調してきたのが主にヨーロッパ諸国です。ヨーロッパ諸国の支援のもとで、米国の世界戦略が進められてきたといえます。

一方で、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの国々は、政治的・経済的に十分な力を持たなかったため、米欧帝国主義に表立って対抗することは難しく、静かに自国の進むべき道を

模索してきました。

しかし米国は、こうした地域に対しても絶えず政治的に干渉し、政権転覆の機会を狙い続けてきました。

21世紀に入り、とりわけトランプ政権以降、米国の世界支配は大きく揺らぎ始めています。これは、米国内の統一が弱まってきたこととも深く関係しています。

もはや従来のように米国が「世界の覇者」としての地位を維持することは困難となり、影響力の低下は動かしがたいものとなっています。

こうした歴史的危機のなかで、米国は強引な威圧や虚勢によって、他国を従属させようとする姿勢を強めています。

これまで米国に追従してきた国々は、政治的経済的圧力に対して恐れを抱き、迎合する傾向が見られます。

また、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの一部の国々は、対米自主の姿勢を持ちながらも、明確な路線をとれずに苦慮しています。

しかし、いま世界では新たな歴史をきり拓こうとする大きなうねりが生まれています。

朝鮮、ロシア、中国を中心とした反帝・自主の連帯が力強く形成され、結束は日を追って強化されています。その表徴は、今年9月3日に北京でおこなわれた戦勝80周年の国際行事において示された、朝鮮、ロシア、中国の指導者の団結した姿です。

反帝自主勢力の団結がかつてなく強化される反面、米国主導の帝国主義陣営においては、足並みが乱れつつあり、従来のような一体性を維持できなくなっています。

核兵器においても、朝鮮は米本土を射程におく核を保有するなど、特定の国の専有物ではなくなっています。核戦争が世界全体を破滅へ導くことは明白であり、帝国主義勢力による核使用は自制せざるを得なくなっています。

重要なのは、自主・平和を志向する勢力が団結し、自主・自立・自衛の原則に基づいて、人民を信じ依拠して自国の政治・経済を自立的に運営していくことです。

人々は、平和な環境のもと、互いを尊重し、協力し合いながら生きていきたいと願っています。また豊かな自然を大切に、美しい地球で持続的に発展していきたいという願いを共有しています。

しかしその願いとは裏腹に、今、ドローンによって人間が無差別に殺戮され、美しい環境も見る影なく破壊されるという異常な事態が進行しています。

すでに世界中で数十万機規模の軍用ドローンが実戦配備され、その多くは AI によって自律制御され、人命をまるで無機物のように処理しています。

このような事態は、米国主導の世界秩序の本質、すなわち倫理や命の尊厳よりも支配と利権が優先されてきた結果に他なりません。

いま、世界が切実に求めているのは「自主」です。

世界の自主・平和を実現するためには、各国人民の思想意志的団結をはかり、人民自身が主人として国づくりを進めることが求められています。

自主を志向する国々が互いに連帯し団結して、新しい平和な世界を共に築いていくことが不可欠です。

帝国主義的支配と従属に反対し、自主・平和を志向する勢力の団結が、これまで以上に重要な意味を持っています。

ヨーロッパに目を向ければ、かつては米国の手先のように振る舞っていた国々が、今では米国から見捨てられ、内部に深刻な混乱を抱えるようになっていきます。

北欧諸国は、長らく福祉国家として独自の道を歩んできました。しかし米国の影響や干渉によって、その多くは西欧諸国と同様の軍事路線へと引き込まれています。平和を志向してきた北欧も、いまや米国の戦争に加担し、かつての姿を失いつつあります。

いまこそ、自主の道に立ち、平和で公正な世界を築く努力が求められています。

グレタ・トゥンベリ氏は、銃を持たず、命をかけてイスラエルによるジェノサイドを止めようと立ち上がりました。

その姿が報道されることで、世界各国で数万～数十万の人々が、パレスチナ人民の解放のために声を上げ、連帯の輪が広がっています。

彼女の勇気ある行動、そして真実を語る言葉は、米帝国主義とイスラエル・シオニスト勢力をして、虐殺を止めざるを得ない状況へと追い込んでいます。

中東でも、和平への動きがこれまでにないほど高まっています。

今、広範な人々が「自主」「平和」「連帯」を掲げて立ち上がれば、世界の流れを大きく変えることができます。さらに、チュチェ思想が示す「自主」の原理こそが、この闘争を勝利へ導く光となるでしょう。

チュチェ思想を深く探究し、信念として貫く人々が、自主・平和・連帯の先頭に立っていくことが、これからの時代において、もっとも重要だと確信しています。

チュチェ思想探求の道、チュチェ思想を実現する道を、信念を強くしてともに歩んでいきましょう。

(2025年11月2日)